

繭糸が細い蚕品種「白繭細1号」の育成と実用化

個性豊かな絹製品を製作するために、細くてコシのある糸を生産する蚕品種の開発が望まれています。これを受け、農林水産省と大日本蚕糸会が2008年より実施した蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業の一環として、当研究所で育成した「白繭細1号」を特徴ある蚕品種の一つとして提供しました。

著名な細織度蚕品種「あけぼの」の流れをくむ「白繭細1号」は、日本種系と中国種系のそれぞれ2品種を交配した4元交雑種です。

繭は普通蚕品種に比べやや小さめで、繭重は2.09g、繭糸長は1,290m、繭糸織度は2.39デニール程度です。その糸は細く柔軟でコシがあり、繰糸後の濡れた糸にはガラス質の強い光沢がみられます。そして、2008年に発足した蚕糸絹業提携グループ「白繭細1号プロジェクト開発チーム」に採用され、この糸で織られた純国産絹織物は、(株)三越伊勢丹のオリジナルブランド「三煌(さんこう)」として販売されており、実際にこれを扱ったお召し製作業者からは、「染色しても絹やせせず、ずっしりとした重量感があり、光沢ある良質の糸である。」と評価されています。

また、2023年5月に開催されたG7広島サミットでは、国際メディアセンター内の政府広報展示で日本を代表する純国産絹として「三煌」が紹介されました。



(株)三越伊勢丹の展示会にて (2011年撮影：常山)